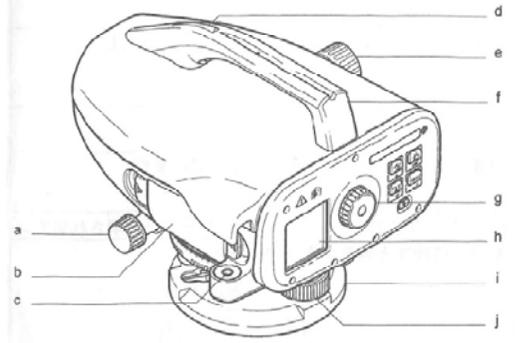


Leica  
スプリンター 150M

操作マニュアル

# ① 各部位の名称と機能説明



- a) 水平微動ネジ
- b) バッテリー収納部
- c) 円形気泡管
- d) 照準器 (照星)
- e) 合焦ネジ
- f) ハンドグリップ
- g) 接眼レンズ
- h) 液晶表示部
- i) 基盤
- j) 整準ネジ



全景写真



全景写真

# ② 操作キーと機能説明



## 操作キーと機能

キー	記号	主機能	副機能
オン/オフ		電源のオン/オフスイッチ	なし
測定		高さ・距離の測定用の測定キー	キーを2秒間押し続けた場合に連続測定
高さ/距離		高さ表示と距離表示の切り換え	カーソルを上に移動*
高低差		基準高設定のための測定と高低差と標高値の計算	カーソルを下に移動*
メニュー		設定の選択と決定	確定のための実行キー*
バックライト		液晶表示部のバックライト	プログラムや設定を解除、前画面に戻るためのESCキー*

\*) メニューモードの場合

# ③ 測定モードとアイコン説明



## 測定モードとアイコン

記号	モード
	測定モード
	メニュー選択モード
	調整モード
	連続測定モード

アイコン	説明
	液晶表示部バックライト点灯
	正像標尺測定モード
	倒像標尺測定モード
	液晶表示のコントラスト (明暗) レベル (1ステップで10%変化)
	バッテリー残量 (0%、25%、50%、75%、100%)
	外部電源使用中*
	内部メモリにデータを保存*

\*) SPRINTER 100M/200M の場合のみ

# ④ 測定キー説明



## 測定

### 高さ・距離の測定

ステップ	キー	説明
1.		本機の電源を入れると Leica のロゴが表示され、初期画面の測定スタンバイモードになります。
2.		標尺に照準を合わせ、焦点を合わせます。測定キーを軽く押すと測定状態になります。
3.		高さ・距離の測定値が表示されます。 

## ⑤ セットアップ



設置状況



専用脚使用



専用標尺使用

## ⑥ 測定の流れ&設定説明

### 測定時の注意点

- ・測定前に水平に設置されているか円形気泡管を確認し、気泡が円の中に納まっているか確認しましょう
- ・標尺は垂直に立てて、バーコード面を読み取るようにしましょう
- ・液晶表示部が暗く見づらい時はバックライトを使用しましょう
- ・「MENU」より「記録から内部メモリー」を選択しましょう

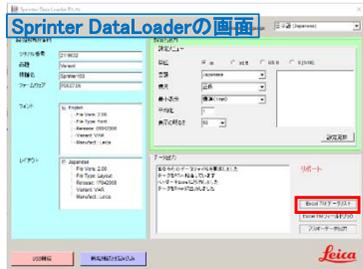
- ※選択されていないと本体に記録されません
- ・盛替え時は⑦「最終測定点」測定後、標尺を動かさずにスマートレベルを盛替え先に設置し標尺を「BIF」モード「B」で測定し①～⑥の作業を繰り返し行うことで、盛替え前後の高低差を自動で計算してくれます

※動画も併せて確認してください



## ⑦ 保存されたデータについて

- ・本体内部に保存されたデータは「SprinterDataLoader (スプリンターデータローダ)」の専用ソフトを使用して処理します
- ・Sprinter DataLoader (スプリンターデータローダ) はケースに同梱されているCDを読み込んでインストールしてください
- ・内部データの転送方法は、本体のバッテリー格納部分内側に、外部出力用のケーブル差し込みがあるので付属のケーブルを使用してパソコンと接続します
- ・画面内の「Excel TMデータリスト」を選択し、パソコンにデータを転送します
- ・転送されたデータは「Excelファイル[.csv]」で生成されます
- ・Excelデータは各点の情報が表示され、盛り替えた点では同じ測点番号が表示されます
- ・観測の種類で「F」、「B」が表示され、GLの列に1点目(基準)と各点の高低差が表示されます



データリストレポート

生成されたExcelの画面

メモリー番号	測点番号	高さ	距離	標尺	参照後視点名	観測の種類	参照基準点名	GL	測設高	切り土	盛り土	比高 (高低差)
		[m]	[m]					[m]	[m]	[m]	[m]	[m]
	BIF											
メモリー番号	測点番号	高さ	距離	標尺	参照後視点名	観測の種類	参照基準点名	GL	測設高	切り土	盛り土	比高 (高低差)
		[m]	[m]					[m]	[m]	[m]	[m]	[m]
1	1	0.000	4.71	正確				0.000				
2	2	1.092	4.34	正確	1	1	1	-0.420				-0.420

## ⑧ 注意点



### 標尺の長さについて

- ・①②一段階伸ばした状態で2500mmの高さまで計測可能 (標尺自体の長さは2560mm)
- ・③④一番短い状態で1300mmの高さまで計測可能 (標尺自体の長さは1460mm)

※使用する環境を事前に確認してください  
※読み取りはバーコード面を読み取る

### 本機器について

・本機器を現場で使用したことがある人が少なく、慣れていない方が大半ですので細かな仕様や使い方については各自で確認してください